

第51回 日本フィル 夏休みコンサート 2025



2025年
4/24 木
発売!

【料金】全席指定・消費税込

S席 子供 3,800円/大人 5,800円
A席 子供 2,800円/大人 4,800円
B席 子供 2,000円/大人 3,800円

※ 子供 = 4歳~高校生

※ 4歳未満は入場できません。

チケットはお一人一枚ご用意ください。

★演奏時間は休憩を含めて約1時間50分です。

~プログラム~

第1部

エルガー：《威風堂々》第1番

ハチャトゥリアン：

《仮面舞踏会》よりワルツ

アンダーソン：ジャズ・レガート

リムスキー=コルサコフ：

《スペイン奇想曲》よりファンダンゴ

第2部

—— バレエ (7/19~27) ——

チャイコフスキー：バレエ《白鳥の湖》

(日本フィル夏休みコンサート 2025版)

— 金子三勇士のピアノでみゆじっく (8/1~24) —

バルトーク：ミクロコスモスより

オスティナート (第6巻146番)

ベートーヴェン：エリーゼのために

リスト：ラ・カンパネラ

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番より 第1楽章

第3部

誰にだってお誕生日 / うみ / 勇気100%

今年も
選べる♪

第2部 バレエ



指揮：園田隆一郎 / お話とうた：江原陽子

バレエ：スターダンサーズ・バレエ団 / バレエ演出・振付：鈴木 稔

7月19日 土 14:00 相模女子大学グリーンホール

7月20日 日 14:00 松戸森のホール 21

7月21日 月(祝) 14:00 府中の森芸術劇場

7月25日 金 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール

7月26日 土 13:00 & 16:30 ソニックシティ (大宮)

7月27日 日 13:00 & 16:30 サントリーホール

♪特設ページ♪



第2部 ピアノ



指揮：大井剛史 / お話とうた：江原陽子 / ピアノ：金子三勇士

8月1日 金 13:00 & 16:30 サントリーホール

8月2日 土 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール

8月4日 月 13:00 & 16:30 東京オペラシティコンサートホール

8月24日 日 14:00 ウェスタ川越大ホール



【お申し込み】日本フィル・サービスセンター

☎ 03-5378-5911 (平日 10時~17時)

eチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

—— 創立指揮者 渡邊 暁雄 ——

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第406回

横浜定期演奏会

406th YOKOHAMA Subscription Concert

2025年 4月19日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm April 19th (Sat.), 2025, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援：神奈川新聞社、+vkk(テレビ神奈川)

協力：横浜みなとみらいホール

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁

ショパン弾き振りシリーズ第2弾 横山幸雄のロマン溢れる世界

24年4月に引き続き、日本を代表する「ショパン弾き」横山幸雄による弾き振りが披露されます。ソロ曲のみならず歌曲までも含むショパン作品全曲演奏に取り組む横山のプロジェクトの一環にあたります。そのためこの公演でも有名なコンチェルトだけではなく、普段なかなか演奏されないピアノと管弦楽の協奏作品が取り上げられます。あえて指揮者を介さずソリスト自らがオーケストラと向き合うことで、より一層ロマンティックな「横山幸雄の世界」が色濃く反映されることでしょう。

Programs

オール・ショパン・プログラム Frédéric CHOPIN

ポーランドの歌による幻想曲 イ長調 op.13 (約14分)

Fantaisie sur des airs polonais in A-major, op.13

演奏会用ロンド《クラコヴィアク》 へ長調 op.14 (約14分)

Grand rondeau de concert "Krakowiak" in F-major, op.14

—— 休憩 (15分) Intermission ——

ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11 (約40分)

Concerto for Piano and Orchestra No.1 in E-minor, op.11

指揮・ピアノ: 横山幸雄

Conductor and Piano: YOKOYAMA Yukio

コンサートマスター: 木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

Profile

©ZIGEN



指揮・ピアノ: 横山幸雄

第12回ショパン国際ピアノコンクールにおいて、歴代の日本人として最年少入賞を果たす。2025年は受賞から35年の年を迎え、クラシック界のトップアーティストとして常に注目を集めている。

日本フィルとは若干10歳で、創立指揮者・渡邊曉雄指揮の下、自身作曲「ピアノ協奏曲」を演奏して大絶賛を博し、その才能を認められた。以降、長年にわたり共演を重ねている。

2010年ショパン生誕200年を記念して行われた14時間に及ぶショパンピアノ独奏曲全曲演奏会「入魂のショパン」はギネス世界記録に認定され、翌年には遺作を含む全独奏曲演奏会で自らのギネス記録を更新。2019年の第10回記念公演では、ショパンが生涯で作曲した240曲の全ての作品(独奏曲、協奏曲、声楽曲、室内楽曲)を3日間で演奏するという前人未踏のプロジェクトを大成功させ、その記録をDVDとしてリリース。また、2013年よりスタートした横山幸雄のもうひとつのライフワークともいえるシリーズ「ベートーヴェン・プラス」や、「4大ピアノ協奏曲」演奏会などに加え、ベートーヴェン生誕250周年にあたる2020年には「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全32曲連続演奏会」を行ない、2日間でソナタ全曲を演奏する偉業を成し遂げ、その模様が全て収録されたDVDを発表。

2015年パリにてラヴェルの全ピアノ独奏曲演奏会、2018年ポーランド・リサイタル・ツアー、2019年ルイージ指揮デンマーク国立交響楽団公演など海外にも活躍の場を広げる。これまでリリースされたCDは、文化庁芸術祭レコード部門優秀賞、国際F.リスト賞レコードグランプリ最優秀賞等栄えある賞を受賞。

2021年デビュー30周年記念CD「横山幸雄 ショパンピアノ協奏曲第1番&第2番他」(ソニー・ミュージック・レーベルズ)をリリース。そして近年は自身の作曲作品の出版や、協奏曲の弾き振りを含めて指揮者としても大成功を収めるなど、活動の場を更に広げている。数々の音楽大学で客員教授として教鞭を取り、故中村紘子女史の遺志を引き継ぎ日本パデレフスキ協会会長を務めている。

オフィシャルサイト <https://yokoyamayukio-official.bitfan.id/>

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

●お客様へのお願い●

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

オール・ショパン・プログラム Frédéric CHOPIN

フレデリック・ショパン (1810-1849) が残した独奏ピアノとオーケストラのための協奏曲の作品は全部で6曲。今回は昨年に続き、ショパンのスペシャリストである横山幸雄の弾き振りでこれらのうち3曲が取り上げられ、2年をかけた全曲演奏が完結する。

ピアノの詩人というだけあって、ショパンの作品はピアノが中心であった。2つのピアノ協奏曲の天才性や人気も、もっぱらピアノ独奏の部分に向けられている感があり、反面オーケストレーションについては、稚拙という批判がしばしばなされてきた。

ただし演奏活動1つをとっても、ショパンがもっぱらピアニストとして名を成したことを考えてみよう。しかも当時は有名な音楽家になるにあたって、ピアノ演奏だけでなく、他の楽器の演奏や指揮もできることが重要だったことを顧みるに、彼がピアノのみを通じてここまで名を成せたのはむしろ例外的な現象だった。

逆に言えば、そこまでピアノ作品の作曲に特別な創造性と感情を抱いていたショパンが、なぜわざわざオーケストラ付きの作品を作ったのか。当時、若いピアニストや作曲家にとっては、ピアノと管弦楽のための曲を作り、それを公の場で発信することこそが、広く世の中に自らを知らしめるにあたって、最も効果的だったからである。

なお、ポーランドの都であるワルシャワでショパンがオーケストラと積極的に共演し、さらにそれを機に広くヨーロッパでの活躍に繋げようとしていたのは1830年のこと。折しも彼が20歳を迎える年であり、本日演奏される作品も、ほぼこの時代に集中して書かれている。

ポーランドの歌による幻想曲 イ長調 op.13

1829年の作品。「大幻想曲」あるいは「華麗なる幻想曲」とも銘打たれている。全体は5つの部分から構成されており、序奏に続いて、ショパンの祖国であるポーランドゆかりの旋律に基づく3つの部分がメドレーのように現れ、最後に短い締めくくりが来る、という内容だ。

作品の中核を成すその3つの部分だが、1つ目はポーランド民謡『もう月は沈み』に基づくゆったりした曲想、2つ目はショパンと親交のあった音楽家カール・クルピンスキ (1785-1857) の作った曲 (彼のオペラ、あるいは『タデウシュ・コシチュシコの死に寄せる哀歌』から採られたという説もある) に基づく痛切なテーマを用いたドラマティックな小変奏曲、3つ目はポーランドの民族舞踊である3拍子を基本とした男女の輪舞「クヤヴィアク」のリズムを採り入れた華やかな響きが特徴だ。

それにしてもショパンはなぜ、民族豊かな旋律を採り入れたのか。1つは当時ロシアの支配下に置かれていたポーランドで、民族独立の機運が生まれており、それをさらに高めるために民謡、あるいは民謡風の民族音楽が注目されていたため。その典型が、ロシアを相手に戦い、ポーランドでは英雄として崇拝されたコシチュシコ (1746-1817) を追悼した曲である。この曲自体はもちろん古くからの「民謡」ではないが、ポーランド人の心に訴えかけるいわば

「新民謡」と見なされていたと考えられる。

2つ目には、かつて一般的には下々のものであった民族／民俗音楽を、特権階級の音楽から派生してきた芸術音楽へ積極的に採用することを良しとするトレンドを、ショパン自身が積極的に受け入れたため。いわゆるクラシック音楽つまり芸術音楽は、19世紀に入ると当時力を伸ばしつつあった市民のものとなってゆき、その中で市民階級に属するショパン自身、芸術音楽を代表する音楽家としての自らの立ち位置を鮮明に打ち出そうとした。

そんな、「愛国者」であり「市民の時代の音楽家」としての矜持が、この作品には漲っている。またこのような背景を持つ幻想曲が初演されたのは、ショパンがワルシャワでおこなった1830年3月の大演奏会 (この時、後述する『ピアノ協奏曲第2番』も初演されている) であり、その際指揮をしたのが、先も触れたクルピンスキだった。

楽器編成 独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽5部。

演奏会用ロンド《クラコヴィアク》へ長調 op.14

「クラコヴィアク」とは、ポーランドの民族舞踊の1つ。前の曲で述べた「クヤヴィアク」が三拍子であるのに対し、「クラコヴィアク」は二拍子を基本とし、男女が輪を成して、横に軽くジャンプしながらステップを踏むのが特徴だ。

さらに「ロンド」(日本語では「輪舞」)と銘打たれていることから分かるように、主要となるテーマ (いわゆる「ロンド主題」) の合間合間に、様々なテーマが入り、全体を形作る。しかも「演奏会用ロンド」というだけのことはあり、ダンス音楽本来の目的である「踊る」という行為ではなく、「聴く」ための芸術音楽に昇華されている点が重要だ (その典型が、美しい夜明けを彷彿させる前奏部分に他ならない)。こうしたところにも、民族／民俗音楽と芸術音楽の融合を試み続けた若きショパンの野心的な姿勢がうかがえる。

作曲は1828年。翌年、ワルシャワ音楽院での学びを終えたショパンは、ヨーロッパを股に掛けた活躍を展開するための試金石として、オーストリアの都ウィーンへ演奏旅行をおこなった。この曲も、同年8月にこの街の宮廷劇場 (ケルトナー門劇場) で催された演奏会において初演されている。

楽器編成 独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽5部。

ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11

独奏ピアノと管弦楽のために書かれたショパンの作品の中で、「協奏曲」と銘打たれたのは、ホ短調の第1番と、ヘ短調の第2番の2曲のみとなる。両者ともに作曲家の20歳前後に約半年を隔てて作曲されているが、出版時期の違いから、先に成立した「ヘ短調」(1829年成立／1836年出版) が第2番、その後に書かれた「ホ短調」(1830年成立／1833年出版) が第1番となっている。

『ピアノ協奏曲第1番』を書き上げた当時のショパンはポーランドにいたが、前年の1829年におこなったウィーンでの演奏旅行が成功したこともあり、祖国を離れてヨーロッパを股に掛けた音楽活動を展開することを計画していた。じっさいこの協奏曲も、ポーランドから出発する1ヶ月前の1830年10月に、ワルシャワで公開初演されている。なおショパンが離れた後のポーランドでは、同年末に起きた武装蜂起の失敗を機にロシアによる支配が一層厳しくなったこともあり、これが奇しくもショパンのポーランドに対する告別演奏会となってしまった。

作曲当時のショパンは若い歌手のコンスタンツヤ・グワトコフスカ(1810-89)に実らぬ恋をしており、その想いが曲を染め抜いている、というのが定説である。じっさいそんな彼の体験を反映してか、古今のピアノ・コンチェルトの中でもこれほどまでに濃い青春の情感をしたたかせ、切ない憧れの火照りをおびたものはない。

ショパン以前にも、たとえば彼が少年時代に聴いて心ひかれたヨハン・ネポムク・フンメル(1778-1837)のピアノ協奏曲のように、ロマンティックな情緒をそなえたピアノ協奏曲は存在した。しかし、ショパンの2つの協奏曲は一見似たような手法をとり、古典的な形式をとりつつも、ひとつつ次元の違った、疼くような情熱の炎を揺らめかせた内容となっている。

第1楽章：アレグロ・マエストロ(勢いを持ちつつ厳粛に)、ホ短調、4分の3拍子。古典的な協奏ソナタ形式で書かれているが、第2主題が通常のソナタ形式とは逆に、提示部はホ長調、再現部はト長調になるといった意表をつく仕掛けも聴かれる。

第2楽章：ロマンツェ ラルゲット(ラルゴ〈幅広いテンポ〉よりも少し速めに)、ホ長調、4分の4拍子。弱音器を付けた弦の序奏に続き、ピアノが壊れそうなまでに美しい主題を奏でる。

第3楽章：ロンド ヴィヴァーチェ(活き活きと)、ホ長調、4分の2拍子。この時期のショパンが積極的に採り入れたクラコヴィアクのリズムを基にしたロンド主題の合間に、様々なテーマが挟まれ、華麗な盛り上がりを見せる。

楽器編成 独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、バス・トロンボーン1、ティンパニ1、弦楽5部。



今日のコンサートの聴きどころは？
ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの
面白解説をお楽しみください！

16時20分
より
大ホール内
にて♪



小宮正安(こみや まさやす) ●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学(大学院都市イノベーション学府・都市科学部)教授。著書に『ベートーヴェン〈第九〉の世界』(岩波新書)、『ばらの騎士』(音楽之友社)、『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』(創元社)、『コンスタンツェ・モーツァルト〈悪妻〉伝説の虚実』(講談社選書メチエ)、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』(春秋社)、『モーツァルトを「造った」男ケッヘルと同時代のウィーン』(講談社現代新書)、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』(集英社新書)など多数。NHK『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演や監修、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安

カロール・クルピンスキとは何者か?



本日の曲目解説で幾度か名前が出て来たカロール・クルピンスキ(1785-1857)。ポーランド時代の若きショパンとも密接な関係を持つこの人物の生涯は、どのようなものだったのか?

ポーランド西部のヴオジャコヴィツェの出身。父親も叔父も音楽家という家系に生まれ育ったこともあり、彼が音楽家の道に進んだのはある意味自然のことだった。貴族の構える私設オーケストラのヴァイオリニストとなり、職業音楽家の道を進み始め、20歳台前半という若さでオペラを手掛けるといった具合に才能を現す。25歳を迎える年にワルシャワに移り住み、以来この街を本拠地に活躍するようになった。

そんな才能あふれる若きクルピンスキを助けたのが、やがてショパンのピアノの師ともなるヨゼフ・エルスネル(1769-1854)。彼の助けもあり、クルピンスキはワルシャワのオペラ劇場の指揮者としても活躍するようになる。なおこの劇場、様々な場所を転々としていたのだが、1833年に新たなホームグラウンドを持つようになる。それこそ、今なおこの街の中心部に威容を誇る、ワルシャワ大劇場。その柿落としのオペラ公演を指揮したのも、他ならぬクルピンスキだった。

指揮者としての活躍だけではない、他にも教育者、音楽出版者としても名を成し、そうした功績ゆえに国内外の音楽協会の会員にも名を連ねた。つまりポーランド音楽界の大立者である。

そうした人物が、エルスネルの紹介もあって、若きショパンと親交を結ぶこととなった。特に指揮者として豊富なキャリアを積んできたクルピンスキが、ショパンにとって必ずしも得意とはいえないオーケストレーションに対し、実際の演奏に至るまで様々なアドバイスを与えたであろうことは想像に難くない。またそのお蔭で、人々から注目されるピアニストとなるために必須の、ピアノとオーケストラの作品をショパンが書き得たことも…。

なおショパンがポーランドを離れた直後の1830年末、かの地ではロシアからの独立を求める武装蜂起が起こる。クルピンスキも蜂起の中心地となったワルシャワにおいて『ワルシャワ市民』という愛国歌を書き、音楽を通じて人々を鼓舞しようとした。ただしこの蜂起は結局鎮圧され、クルピンスキ自身、祖国独立を果たせぬ中で残りの生涯を送ることとなるのだが…。



ピアノの前のクルピンスキ
1825年 アレクサンダー・モリナーリ画

第407回 横浜定期演奏会

2025年5月31日(土) 17:00
横浜みなとみらいホール

指揮: ガボール・タカーチ=ナジ
ピアノ: 三浦謙司

シューベルト: 交響曲第7番《未完成》口短調 D759
モーツァルト: ピアノ協奏曲第21番 ハ長調 K.467
コダーイ: 組曲《ハーリ・ヤーノシュ》op.15

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000 C席 ¥5,000 P席 ¥4,500 Ys席 ¥2,000
※ Ys: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

©Miguel Bueno



ガボール・タカーチ=ナジ

©Harald Hoffmann



三浦謙司

広上淳一 & 日本フィル
オペラの旅 Vol.1
ヴェルディ
仮面舞踏会
2025年4月26日(土) 27日(日) 17:00開演 サントリーホール

ヴェルディ: オペラ《仮面舞踏会》
(セミ・ステージ形式/全3幕/字幕つき)

指揮: 広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]
演出: 高島 勲 合唱: 東京音楽大学

アメリカ: 中村恵理 リッカルド: 宮里直樹 レナート: 池内 響
ウルリカ: 福原寿美枝 オスカル: 盛田麻央 シルヴァーノ: 高橋宏典
サムエル: 田中大揮 トム: 杉尾真吾 他

好評発売中

人間ドラマが交錯する！
広上が全幅の信頼を寄せる
布陣で贈る新シリーズ

SS ¥12,000 S ¥9,500 A ¥8,000 B ¥6,500 C ¥5,000 D ¥3,000 ※一部見切れあり/電話のみ
Ys (25歳以下) ¥4,000* Gs (70歳以上) ¥5,000* *SS,S,D 除く

【チケット購入】日本フィル・サービスセンター
TEL: 03-5378-5911 (平日10:00 ~ 17:00) <https://eticket.japanphil.or.jp>

横浜定期演奏会 2025/2026 シーズンラインアップ

2025年9月より開演時間が変わります

横浜定期演奏会は 2025/2026 シーズンより
15:00 開演 (14:10 開場) といたします。

第410回

2025年9月20日(土)

指揮: カーチュン・ウォン
[首席指揮者]

ピアノ: 高木竜馬

伊福部 昭:

SF交響ファンタジー第1番

ラヴェル: ピアノ協奏曲

ドヴォルジャーク: 交響曲第9番《新世界より》

©Ayane Sato



©Yuji Ueno



第411回

2025年10月25日(土)

指揮: 藤岡幸夫

トロンボーン: 伊藤雄太

[首席奏者]

吉松隆: アトム・ハーツ・クラブ組曲 第1番

吉松隆: トロンボーン協奏曲《オリオン・マシーン》

[日本フィルシリーズ第34作]

シベリウス: 交響曲第1番

©Shin Yamagishi



©井村重人



第412回

2025年11月22日(土)

指揮: 太田 弦

ピアノ: 牛田智大

ショパン: ピアノ協奏曲第2番

チャイコフスキー: 交響曲第5番

©ai ueda



©Ariga Terasawa



©hiro.pberg berlin

第413回

2025年12月13日(土)

指揮: 出口大地

ソプラノ: 砂田愛梨

メゾソプラノ: 山下裕賀

テノール: 石井基幾

バリトン: 高橋宏典

合唱: 東京音楽大学

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》他



第414回

2026年1月24日(土)

指揮: ヴァイオリン:

ヴィルフリート・和樹・ヘーデンボルク

ベートーヴェン: 《献堂式》序曲

モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲第3番

ヨーゼフ・シュトラウス: 我が人生は愛と喜び

J. シュトラウスII世:

アンネン・ポルカ、ポルカ・シュネル《浮き立つ心》

ワルツ《ウィーン気質》

ポルカ《帝都はひとつ、ウィーンはひとつ》

ワルツ《芸術家の生活》



©山本倫子

第415回

2026年3月21日(土)

指揮: 小林研一郎

[桂冠名誉指揮者]

クラリネット: 伊藤寛隆

[首席奏者]

モーツァルト: クラリネット協奏曲

ベートーヴェン: 交響曲第3番《英雄》



©井村重人

プレ70周年
定期会員券
(全6回)

S席 ¥34,200 A席 ¥29,100 B席 ¥25,200 C席 ¥21,300
P席 ¥16,200 [(第413回を除く) 全5回] Ys席 ¥10,800

一般発売 5月28日(水)

■新入団のお知らせ

2025年4月1日にパーカッション・セクションに本間雄也が入団いたしました。
今後の活躍にご期待ください。

■退団のお知らせ

コントラバスの高山智仁は2025年3月31日付で退団いたしました。1998年6月に入団、2009年3月より首席奏者として活躍してまいりました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

■放送予定

3月第768回東京定期演奏会の模様はNHK+でもご視聴いただけます。

NHK-E テレ「クラシック音楽館」 4月13日放送～4月20日夜11時まで

※やむを得ず休止・延期となる場合がありますがご了承ください

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組！『Welcome クラシック』BS朝日
毎週水曜日 22:54～23:00 (第3週、第4週は再放送)。ぜひご覧ください！

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。
フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

にじクラ ～トークと笑顔と、音楽と 第8回

2025年9月17日 14:00 サントリーホール

指揮：川瀬賢太郎 チェロ：上野通明* ナビゲーター：高橋克典

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第1番プレリュード*

フレスコバルディ（カサド/小林幸太郎編曲）：トッカータ*

ブルッフ：『コル・ニドライ』* ドヴォルジャーク：交響曲第9番《新世界より》

S ¥6,000 A ¥4,000 P ¥3,500 Sペア ¥11,600

好評
発売中

◆定期会員券ご購入のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。
心より御礼申し上げます。

3月の寄付者 直井和夫様 匿名5名様

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター

〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時～17時)

FAX: 03-5378-6161 (24時間)

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急（横浜みなとみらいホール向かい）にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食：下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。（4名様まで）※除外日および対象外メニューあり

オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご呈示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。

※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

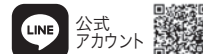
公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

(1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊曉雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
- 客員首席指揮者/ネメ・ヤルヴィ

- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)/広上淳一

公式X (元Twitter)
@Japanphil



ソロ・コンサートマスター
扇谷泰朋
木野雅之
田野倉雅秋

アシスタント・
コンサートマスター
千葉清加

第1ヴァイオリン

伊藤太郎
太田麻衣
九鬼明子
齋藤政和

柳 渚

竹歳夏鈴

谷崎大起

田村昭博

中谷郁子

西村優子

平井幸子

本田純一

第2ヴァイオリン

遠藤直子

大貫聖子

岡田紗弓

加藤祐一

神尾あずさ

川口 貴

佐藤駿一郎

末廣紗弓

豊田早織

町田 匡

松川葉月

山田千秋

ヴィオラ

☆安達真理

江藤史織

小俣由佳

小中澤基道

児仁井かおり

高橋智史

中川裕美子

中溝とも子

松澤雅奈

ソロ・チェロ
門脇大樹
菊地知也

チェロ

石崎美雨

伊堂寺 聡

江原 望

大澤哲弥

久保公人

篠原和仁

山田智樹

コントラバス

鈴木優介

成澤美紀

宮坂典幸

森田麻友美

山口雅之

フルート

◎真鍋恵子

齋藤光晴

難波 薫

オーボエ

◎杉原由希子

◎松岡裕雅

佐竹真登

クラリネット

◎伊藤寛隆

◎楠木 慶

照沼夢輝

堂面宏起

ファゴット

◎田吉佑久子

◎鈴木一志

中川日出鷹

ホルン

☆丸山 勉

◎信末碩才

伊藤 舜

原川翔太郎

村中美菜

ソロ・トランペット
オットー・クリストフ・クリストフ・クリストフ・クリストフ

トランペット

◎大西敏幸

◎大飼伸紀

中里州宏

中務朋子

星野 究

トロンボーン

◎伊藤雄太

◎笠間勇登

□福島莉那

バス・トロンボーン

中根幹太

チューバ

柳生和大

ティンパニ

◎エリック・バケラ

◎池田健太

パーカッション

大河原 渉

□本間雄也

ハーブ

松井久子

楽団長

星野 究

チーフ・ステージ・マネージャー

阿部紋子

ステージスタッフ

長橋健太

森田大翔

チーフインスペクター

佐藤駿一郎

インスペクター

鈴木優介

谷崎大起

ライブラリアン

鬼頭さやか

坂庭史映

杉本哲也

理事長(代表理事)
平井俊邦

副理事長(代表理事)

五味康昌

専務理事(代表理事)

福井英次

常務理事(代表理事)

後藤朋俊

理事

石井啓一郎

石塚邦雄

佐々木経世

田村浩章

戸所邦弘

中根幹太

葉田順治

福本ともみ

監事

上條貞夫

福澤宏哉

評議員会会長

加藤丈夫

評議員

青井 浩

安孫子 正

荒蒔康一郎

石村 等

稲垣 尚

内川清雄

大塚宣夫

海堀周造

梶浦卓一

河北博文

喜多崇介

木村恵司

久保田 隆

小林研一郎

島田精一

津田義久

西澤 豊

野間省伸

福満一夫

村上典吏子

山口多賀幸

名誉顧問
熊谷直彦
島田晴雄
田邊 稔

マネジメント・スタッフ

浅見浩司

磯部一史

江原陽子

及川ひろか

小川紗智子

荻島里帆

賀澤美和

柏熊由紀子

小須田萌

佐々木文雄

澤田智夫

篠崎めぐみ

杉山綾子

杉山まどか

高橋勇人

田中正彦

樋谷祐子

中村沙緒里

西田真菜

長谷川珠子

藤田千明

藤村益江

古館順一

別府一樹

益満行裕

宗澤晶子

山岸淳子

吉岡浩子

シニア・パートナー

新井康夫

伊波 睦

永島義郎

南部洋一

吉江信博

団友
青柳哲夫
青山 均
赤堀泰江
新井豊治
石井啓一郎
伊藤恒男
伊波 睦
宇田紀夫
遠藤 功
遠藤剛史
大石 修
大川内 弘
寛 美知子
金本順子
蒲谷隆行
川口和宏
菊田秋一
岸良開城
吉川利幸
木村正伸
小林俊夫
小山 清
斎藤千種
佐々木裕司
佐藤玲子
菅原 光
高木裕子
高木雄司
高木 洋
高倉理実
高山智仁
田沢 烈
内川和男
堂阪俊子
富樫尚代
豊田尚生
中川二朗
永田健一
中務幸彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福島喜裕
松本克己
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
渡辺哲雄